

女子三段跳

(高3) 岡島奏音さん大会新で日本一に

JOCジュニアオリンピックカップ 第19回U18

岡島さんは「ずっと目標にしてきた日本一を達成できて本当に嬉しい。多くの人に応援され、おめでとうと声をかけてもらつたことで、これまでの取り組みが間違つていなかつたと実感した」と語る。高校最後のインター

一ハイは強い思いを持って臨んだだけに、悔しさが大きかつた。しかし「落ち込んでチャンスを無駄にする方がもつたない」と前を向き、練習に対する意識を一段と高めた。競技力向上に加え、勝ちたいという気持ちだけでなく、食事や睡眠といったコンディション管理にも主体的に取り組み、結果へ結び付ける準備を整えていった。

支えとなつたのは、自身も三段跳の選手として活躍した出口大貴教諭の「絶対日本一にさせるから」との言葉。うまくいかない時期や自信を失いかけた場面でも、この言葉に励まされた。中高を通して注目が集まり、期待やプレッシャー寄せた。

岡島さんは「まだスタートライン。大学、社会人と経験を重ね、日の丸を背負う選手に成長してほしい」と期待

10月17日から19日にかけ三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場で開催された「第19回U18・第56回U16陸上競技大会」において、U18女子三段跳の岡島奏音さん(高3)が12m81をマーク。大会新、高校歴代9位となる記録を打ち立て、優勝した。7月のインターハイでは4位にとどまり、「一番をめざしてきたので悔しさが大きかった」と振り返つていたが、今大会でついに悲願の日本一に輝いた。

出口教諭と一人三脚でつかんだ頂点

岡島さんは「ずっと目標にしてきた日本一を達成できて本当に嬉しい。多くの人に応援され、おめでとうと声をかけてもらつたことで、これまでの取り組みが間違つていなかつたと実感した」と語る。高校最後のインター



ついに日本一に輝いた岡島さん

高大連携により質の高い学びが実現

1学期には伊勢市役所職員や医療関係者による講話が行われたほか、本学からも齋藤平学長をはじめ、中松豊教授

(教育学部)など7名の教員が特別講演を担当。それぞれの専門分野から学びの意義や将来への展望について語り、生

ドワークの充実、高大連携による専門的な学び、一流講師陣による指導にある。フィー

ルドワークでは実体験を通じて机上の学びでは得られない視点を得られる。また、講師には本学の教授陣をはじめ、行政職員や現役の医療従事者など、各分野の第一線で活躍する専門家を招き、実践的な授業を行っている。

ルドワークでは実体験を通じて机上の学びでは得られない視点を得られる。また、講師には本学の教授陣をはじめ、行政職員や現役の医療従事者など、各分野の第一線で活躍する専門家を招き、実践的な授業を行っている。

2学期にはフィールドワークを取り入れ、より具体的な学びを進めている。11月5日には本学教育学部の学生が子育てを実践的に学ぶ「子育て支援活動」を見学。教育系クラスの生徒たちは実際に幼稚と保護者の関わりを間近で観察し、保育の現場で求められる配慮や工夫を学んだ。

皇學館高校で探究活動が活発に展開



■注目記事

カルチャー&スポーツ 2面
駿伝競走部・柔道部・硬式野球部大会結果

イベント&エデュケーション 3面
京都橘大学で視察研修

グローバル 4面
日本宗教研究の成果を世界へ発信
カナダ・マギル大学「前近代日本宗教国際会議」

5面
令和7年度内定状況(中間報告)

中高トピックス 6面
皇學館高等学校通信制課程のご案内 ほか

7面
倉陵祭・皇中祭を開催
笛師・松下恵吾さん(神道4)が伊勢市美術展覧会で受賞

アクティビスチューンメント 8面
赤松芽衣さん(コミ2)の作品が優秀賞
第45回「地方の時代」映像祭 ほか

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大学 大学院 文学部 教育学部
専攻科 現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201代 FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)



理事長交代、感謝と継承の集い



11月7日、小串和夫前理事長の長年にわたるご尽力を労い、あわせて圓藤恭久理事長の就任を披露する会が熱田神宮会館で催された。挨拶に立った小串前理事長は在任した5年半を振り返り、「コロナ禍というかつてない困難の中、教員が一丸となって乗り越えてく

圆藤理事長は、「大任を押し、責

任の重さを改めて感じている」と

、「先人の志を受け継ぎ、皆さま

のこ期待に応えられるよう、精い

小串前理事長には引き続き常任

顧問に就任いただき、大所高所か

らご指導を仰ごこととなつた。



つぱい学園運営に努めてまいりた

い。今後ともご支援とご協力を

お願いしたい」と決意を語つた。

来賓の方々からも温かいお言葉

をいただき、会は和やかに執り行

われた。

圆藤理事長は、「大任を押し、責

任の重さを改めて感じている」と

、「先人の志を受け継ぎ、皆さま

のこ期待に応えられるよう、精い

小串前理事長には引き続き常任

顧問に就任いただき、大所高所か

らご指導を仰ごこととなつた。

かけることが大切だ。

伊勢まつりに CLL活動が出店



人気を博した「すごろくゲーム」のブース

10月11日、12日に開催された「伊勢まつり」に、本学のCLL活動などがブースを出店し、祭りを盛り上げた。これは市制20周年企画「未来へつなごう伊勢まつり」に応じたもので、学生が地域に貢献する活動を中心に企画を立案した。

12日、CLL活動からはAIを活用したオリジナルブック作成体験「Generative Link AI結(あいむすび)」と、「伊勢志摩TSUTAE隊(旧:あぱいー伊勢志摩国立公園学生部会~)」による3市1町(鳥羽市・志摩市・伊勢市・南伊勢町)を巡るすごろくゲームが出店された。出店に参加した松崎圭冴さん(現日1)は「想定よりも多くの方に訪れていただけた。最初は緊張でしたが、子どもたちがすごろくで遊ぶ姿を見て自然と笑顔になり、楽しく接することができた」と、交流の充実感を語った。

ほかにも、教育学部の駒田聰子教授のゼミによる伊勢茶のふるまい、皇學館サービス株式会社からは「ぱんじゅう」などの物品販売も行われ、雨のなか多くの市民が本学ブースを訪れた。

本活動は、本学の地域貢献活動を市民に知っていただくとともに、学生が地域社会との交流を通じて実践力を養い、地域貢献への意欲を高める貴重な機会となった。

学生が全国まちづくりカレッジに参加



現代日本社会学部の地域社会研究会と茶業研究会の学生11名が令和7年9月16日・17日に香川県で開催された「第30回全国まちづくりカレッジ2025 in 直島」に参加した。同カレッジは、大学と行政、商工会議所、NPOなどが連携し、地域社会と大学教育の結び付きを深めることを目的とした全国的な交流の場。まちづくりに携わる学生団体が一堂に会する。

本学学生たちは直島地域活性化プロジェクトが実施するフィールドワークに加わり、地域住民との対話や現地観察を通じて、観光と地域生活の両立について学んだ。住民からは、観光客の増加を歓迎する一方で、オーバーツーリズムによる課題にも直面している現状が語られ、地域を多面的に捉える重要性や地域文化への理解が共生の鍵であることを実感した。また、他大学の学生との交流を通じて、発表資料の工夫や効果的な情報発信方法も学ぶことができた。今回の経験を通じ、今後の地域研究活動において、多様な視点を取り入れ、実践的な提案へとつなげていく決意を新たにした。

Global グローバル

日本宗教研究の成果を世界へ発信 カナダ・マギル大学「第6回前近代日本宗教国際会議」

かけて、カナダ・マギル大学で「第6回前近代日本宗教国際会議」が開かれ、本学から塙川哲朗准教授と瓜田理子准教授が出席した。両准教授は神道や式年遷宮に関する研究成果を英語で報告し、国内外の研究者と実りある意見交換を行った。

研究者間の意見交換と国際交流を目的

に6回目の開催となつた今回は、「日本の宗教儀礼における響きと色彩」をテーマに、北米・ヨーロッパ・日本から日本宗教研究の専門家(大学院生)が集まり、神道や仏教の祭祀・儀礼に関する最新の研究成果を発表した。

塙川哲朗准教授は「天皇祭祀と神宮祭祀—古代における神宮式年遷宮の祭りを題材に—」と題し、山口祭など第63回神宮式年遷宮に関する重要な祭りを紹介。式年遷宮の祭りや天皇の祭祀を成立、天皇の祭祀などについて論じた。瓜

田理子准教授は「音

なき祈りの深奥—伊勢神宮と賢所における神樂秘曲とインド音響思想との対話」との演題で、微音により神樂を神前で奏することの宗教的意義を論じた。

前近代の天皇や神宮の祭祀に

お出迎えの後、中学校体育館で

歓迎式を実施。本校代表生徒2名

による英語での司会のもと、双方

の代表者による挨拶やタイ王国伝統

チエンマイ支部に所属するメンバ

ー26名が9月30日に来校し、皇學

館中学校の生徒らと交流授業を行

つた。

お出迎えの後、中学校体育館で

歓迎式を実施。本校代表生徒2名

による英語での司会のもと、双方

の代表者による挨拶やタイ王国伝統

チエンマイ支部に所属するメンバ

ー26名が9月30日に来

縦割り班で学年超え協力

令和7年度 体育大会を開催



縦割り班により、学年の枠を超えた絆を深めた

11月8日、グラウンドのコンディション不良で延期となっていた体育大会が実施された。50m走やチャレンジャー・ザ・ギネスに加え、新たにダンス発表が取り入れられるなど、工夫を凝らしたプログラムが並んだ。生徒たちはこの日に向けて練習を重ね、本番では見応えある演技やレースを披露した。

また、縦割り班による対抗レースでは学年を超えて互いを励まし合う姿が随所で見られ、会場は温かな一体感に包まれた。生徒一人ひとりの努力と協力が光る、心に残る体育大会となった。

【大会結果】

1位	青組
2位	黄組
3位	赤組

※生徒縦割り班

中学校生活最後の体育大会は、縦割り班での対決がとても印象に残りました。学年の枠を超えて協力し合い、優勝という目標に向かってチームの一体感を感じることができました。唯一学年別に行ったダンス発表はクラス全員で練習を重ね、本番ではリラックスして楽しく踊ることができました。踊る直前に組んだ円陣はクラス一人ひとりを鼓舞するものであり、一体感を感じた瞬間でした。

3年A組 前田愛莉珠

入学して2回目の運動会。ダンス種目が追加されたり、チームが全学年混合になったりと変更点はありました。結果的に学年・学校全体の絆が深まったと思いました。一番熱かった種目は「魔法の絨毯」です。私のチームは最初劣勢でしたが、巻き返して同率2位と分かった際には友達と歓喜に沸きました。総合結果は2位でした。来年は優勝を勝ち取り、有終の美を飾りたいと思います。 2年A組 松井春陽

第2学年宿泊研修 in 大阪

10月23日・24日に1泊2日の日程で、2年生が大阪で宿泊研修を行った。キャリア教育の一環として、はたおり工房・報道・空港・ガスエネルギーなどさまざまな分野の職場見学を行い、生徒たちにとって自身の職業観を広げ、今後の進路について考える有意義な研修となった。以下に生徒の感想を掲載する。



NHK大阪放送局にてアナウンサー体験



住吉大社を参拝



ガス科学館でガスについて学ぶ

●「ものづくり」の講義をご担当いただいた先生はとても面白く、興味をもって話を聞くことができました。河内木綿工房では織るのがとても楽しかったです。住吉大社は伊勢神宮や去年の宿泊研修で参拝した熊野本宮大社とはまた違う美しさがありました。

●NHK大阪放送局が特に面白く、いろいろなラボやアナウンサー体験ができたりしてとても良い思い出になりました。関西国際空港では普段は立ち入れない保安区域にも入させていただき、航空業界を裏側から支える人々を間近に感じることができました。ガス科学館では多彩なプログラムが用意されており、終始楽しみながらガスエネルギーについて知ることができ、とても意義のある宿泊研修だったと思います。

中学校

熱気がグラウンドを包み込む

第63回 体育大会を開催



全力を出し切った綱引き(左)と表彰式

雨 天順延となっていた体育大会が10月3日に開催された。学年別競技（1年：バンブーレース、障害物競走／2年：二人三脚、魔法の絨毯／3年：ドラゴンレース、ムカデ競争）をはじめ、実行委員レク競技、綱引き、応援合戦、∞縄跳び、クラブ対抗リレーや4×100mリレー、20人リレーなど、多彩な種目が繰り広げられた。どの競技も白熱し、生徒たちは声援を送り合いながら一日を駆け抜けた。

体育大会実行委員長の押田君尋さんは「全校生徒の熱気がグラウンド中を包み込み、応援合戦では全学年が一丸となり、大いに盛り上りました。みんなの笑顔溢れる体育大会になったことを心から嬉しく思います」と振り返った。

【大会結果】	
1位	3年2組
2位	2年2組
3位	3年7組
20人リレー	
優勝	3年4組

ス�포フェスを開催



ボッチャ(上)とバドミントン

総合優勝	2-1
バドミントン	1-9
バレーボール	3-7
ボッチャ	2-5

12月19日、スポーツフェスティバルを実施。当日はバーレーボール、バドミントン、ボッチャの3種目が行われ、熱戦が繰り広げられた。生徒たちはクラス一丸となって競技に臨み、協力の大切さやスポーツの楽しさを改めて実感したようだ。結果は上記の通り。

高等学校

通信制課程のご案内

皇學館高等学校では、多様化する現代の学びのニーズに応えるため、全日制に加え、新たに通信制課程を併設し、令和8年度生の募集を開始します（令和7年10月10日、三重県知事より認可）。本課程は「神道」を教育理念の核に据え、個人のベースを尊重した柔軟な学習スタイルと、将来を見据えた先進的なカリキュラムを提供します。

皇學館高等学校 通信制課程

学科	●普通科（狭域制：三重県および愛知県対象）
開校	●令和8年4月1日 修業年数 ●3年以上
募集開始	●令和7年12月1日 募集定数 ●30名

特長

- 一人ひとりに合わせた徹底的な個別サポート
- 大学進学に適したカリキュラム
- 将来の可能性を広げるDX教育と「高大連携」の推進

サポート体制の特色

通信制課程で学ぶ生徒の学習を支えるため、「安藤塾」（本校：三重県伊勢市）と連携し、「安藤塾」の各教室をサポート教室として、スクーリングのない日の生徒一人ひとりの学びを支援します。ただし希望者のみのWスクールとなり、費用は別途発生するものの、一人ひとりの学びを確保する体制を推進しています。

3名が優良生徒表彰

第61回 三重県私学大会

10月18日、アスト津・アストホールにおいて第61回三重県私学大会が開催され、皇學館高等学校の福井悠真さん、押田君尋さん、皇學館中学校の石井佑吾さんが優良生徒表彰を受けた。また、中学校の岩城美紗教諭、高校の中西由佳教諭が20年永年勤続表彰を受けた。以下に生徒3名のコメントを紹介する。



左から石井さん、押田さん、福井さん

福井 悠真（皇學館高等学校）

優良生徒賞という非常に名誉な賞を受賞させていただき、とても光栄に思います。約1年間校友会活動に参加し、さまざまな方々の力を借りてここまで活動することができました。学校行事ではたくさんの方々の協力があり、私は本当に周りの人に恵まれていると感じています。今回の表彰で慢心せず、これからも人として精進していきたいと思います。

押田 君尋（皇學館高等学校）

受賞理由のひとつに校友会総務委員長としての活動がありました。初めて約900人の生徒の前で挨拶をしたとき声が小さく詰まってしまい、うまく話すことができませんでした。友達や先生方のアドバイスを受け、何度も経験を積むことで自信が付き、うまく話せるようになりました。校友会活動を通して人間として大きく成長することができました。この受賞を糧にさらに日々精進していきます。

石井 佑吾（皇學館中学校）

今回、優良生徒表彰をいただけたことを心から嬉しく、光栄に思っています。この表彰は、私自身の学校生活を見つめ直し、さらに成長するためのチャンスだと強く感じました。残りわずかな中学校生活を最高に充実したものとするため、これからは学校行事に今まで以上に積極的に参加し、自分らしさや主体性を大いに発揮していきたいと思います。

高等学校・中学校

笛師・松下恵吾(神道4)さんが伊勢市美術展覧会で受賞

第71回伊勢市美術展覧会・工芸部門で松下恵吾さん(神道4)が制作した能管*が教育長賞を受賞した。思いがけない知らせに「驚いた」と語る松下さん。表彰式後の「作品を語る会」では若手ながら工芸に真摯に取り組む姿勢や、笛という題材の珍しさ、さらに竹と漆の魅力を最大限に引き出している点が高く評価されたという。これまで篠笛を中心に制作してきた松下さんにとって能管は初の挑戦。見事な成果を収めた。

息を吹き込むことで漆が変化し、音が育つ。そうした“人と自然の共同作業”が笛づくりの魅力と松下さん。「使い捨てが当たり前の時代だからこそ、一生ものとして共に育つ笛に価値を感じます。吹き込まれた笛の艶や音色には時間の重みが宿ります」。

次なる目標は龍笛の制作。「さらに深く笛づくりを探求したい」と意欲を語る。伝統と創造のあわいで、松下さんの挑戦は続く。

*能管…日本の伝統的な横笛の一種で、主に能楽で使用される。



『日本後紀史料』第1巻が完成 創立百五十周年完結をめざして

研究開発推進センター史料編纂所は、開設以来の事業として『續日本紀』を基軸とした『續日本紀史料』(全20巻22冊)の編纂を続け、平成26年3月に刊行を完了した。同書は創立百三十周年・再興五十周年の記念事業として結実したものである。その次なる事業として、『續日本紀』に続く『日本後紀』をベースにした編年史料集『日本後紀史料』の編纂に着手し、このたび第1巻(延暦11年~同16年)が完成了。本巻は紙媒体を作成せず、電子データを学術リポジトリに登録・公開し、広く閲覧・活用に供する方針である。『日本後紀』は全40巻のうち現存するのは僅かに10巻であり、根幹史料が不完全であるため、これを基軸とする編年史料集の編纂は多難を極める。しかし、本事業は大学当局の英断により、創立百五十周年の記念事業に採択された。史料編纂所スタッフはこれに力を得、令和14年の完成をめざし、日々作業に邁進している。第1巻の公開を機に、皆様方の一層の支援と協力を願う次第である。



颁布用に作成したDVD



第64回 倉陵祭

学友会が初の企画運営で「新風」起こす

第64回倉陵祭が10月25日・26日の両日開催された。

今年度は初の試みとして、企画から運営までのすべてを学友会総務部が担当。テーマ「新風」のもと、伝統に新たな価値を加える取り組みが見られた。

初日は厳かに執り行われた祭典から始まり、各教室ではクラブなどの学生展示や、毎年子どもたちに人気の劇や茶会など、多くの催し物が開催された。また、学会の研究発表やゼミ発表も行われ、ステージではアンサンブル部やよさこい部“雅”、ダンス部などが迫力のステージで観客を魅了した。2日目は、学生参加型企画として「eスポーツ」や「ポッチャ」、「謎解きウォークラリー」などの新企画を導入。記念講堂ではアーティストライブやお笑いライブも行われた。

学友会総務委員長の甲田真吾さん(現日4)は、日頃から活動を共にする学友会の強みを生かし、既に築かれた信頼関係や円滑なコミュニケーションによって準備を効果的に進めることができたと振り返る。柔道部に所属し、学友会行事などの企画運営経験はなかったが、「大学への恩返しをしたい」との強い思いを原動力に委員長にチャレンジ。慣れない業務に苦労しつつも、仲間と課題に向き合う過程で「かけがえのない経験」を得られたと語り、異なる背景を持つ学生同士が互いを尊重し合い、強い結束が生まれたことが最も大きな成果と話した。

企画面では学生参加型の新企画を導入。また、昨年の課題を踏まえ、屋外ステージを全面的に屋内へ移行し、天候リスクの軽減と準備負担の削減を図った。一方で、パンフレットのWeb公開に伴う案内不足、学生参加率の伸び悩みなどの改善点も明らかとなった。

準備期間の日々を「宝物」と表現し、「この経験が自らの価値観を変え、周囲にも良い変化をもたらした」と語る甲田さん。今回得られた成果と課題は、次回の倉陵祭をさらに発展させる礎となるだろう。



祭典：倉陵祭の安全と成功を祈願



ダンス部は圧倒的なパフォーマンスで魅了



日頃の練習の成果を披露(書道部)



チームワークが発揮された学友会総務部

第46回 皇中祭

クラスの力を結集させ、絆が深まった2日間

11月14日・15日に第46回皇中祭が開催され、校内は多彩な企画と展示で大いに賑わった。今年はクラス展示、作品展示、部活動体験などをスタンプラリー形式で公開し、来校者は生徒たちの創意工夫を楽しみながら会場を巡った。

初日は合唱コンクールとブックレビューバトルが実施された。多くの観客を前にした全体合唱で生徒たちは緊張しつつも最後まで歌い切り、舞台に立つ喜びと達成感を味わった。ブックレビューバトルは出席メンバーにとって新たな挑戦の場となった。

2日目のクラス展示は活気に満ち、未来理工部による「皇學館のマイクラ再現」や宝探し企画が特に注目を集めた。

校友会の松井春陽さんは「成長を実感した時間だった」と振り返り、ピアノ伴奏でミスしながらも弾き切った充実感や、来校者の笑顔が心に残ったと話した。前田愛莉珠さんは、準備段階で意見の衝突もあったが、自分の考えを伝えることで協力が生まれ、より良い展示づくりにつながったと語る。また、周囲を見て行動し、困っている人に手を差し伸べる姿勢の大切さを痛感し、「学年全体の成長と仲間と歩む喜びを改めて感じた」と満足した様子で話した。

今年の皇中祭は形式の変化があるなかでも生徒たちが主体的に挑戦し、それぞれが新たな経験と学びを手にした2日間となった。育まれた絆と成果は、かけがえのない財産となるに違いない。



厳粛な雰囲気の中、執り行われた祭典



熱戦となったブックレビューバトル



ハーモニーが響いた合唱



3学年クラス展示



2学年クラス展示



1学年クラス展示

アクティブ・スチューデント Active Student

高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりを紹介します。

赤松芽衣^(コミ2)さんの作品が優秀賞

第45回「地方の時代」映像祭・市民・学生・自治体部門

皇學館大学大学生テレビ局に所属する赤松芽衣さん(コミ2)の作品「山奥の小さな楽器店ラモーション」が、第45回「地方の時代」映像祭・市民・学生・自治体部門で優秀賞を受賞した。赤松さんは



受賞報告のため、12月3日に伊勢市長を表敬訪問した。左から鈴木健一伊勢市長、赤松さん、原田柾さん(教育4)

「まさか自分の番組が賞をいただけるとは思わず、とても嬉しかった。指導してくださった先生や撮影に協力してくれた仲間に感謝している」と話す。作品づくりのきっかけは、趣味のギターにまつわる番組を作りたいと考えた際、松阪市郊外にある楽器店ラモーションの存在を知ったことだった。親子でバンド活動も行う垣内章伸さんと息子の楽守さんが営む、こぢんまりとしたながらも温もりあふれる店。番組制作では、2人の人柄や店の穏やかな空気が伝わるシーンを選ぶのに注力したという。完成後、垣内さんから「お客様にこんな反響があったよ」と電話があり、「作ってくれてありがとう」と言葉をもらえたことが



「音楽の楽しさや自分らしく生きていくことの大切さを伝えたかった」と赤松さん(中央)

何より嬉しかったと振り返る。赤松さんは、テレビ局での活動を通してコミュニケーション力や協調性が育まれ、最後までやり遂げる力が身に付いたと実感。これからも撮影や編集の技術を磨き、仲間と支え合いながら、多くの人に届く作品づくりに挑戦していきたいと意気込んでいる。



作品の視聴はこちらから▶

乾 椰華^(高1)さんが「尾瀬の夏空」で大賞に 第14回 尾瀬書展

第14回尾瀬書展で、皇學館高等学校1年の乾椰華さんが見事大賞に輝いた。思いがけない受賞に「はじめは驚きましたが、とても嬉しかったです」と顔をほころばせる。受賞作「尾瀬の夏空」は、「雲ひとつない尾瀬の空を表現したい」との思いを胸に臨んだ作品だ。行書を用いて線に強弱をつけ、自然の伸びやかさを意識したという。書道を始めたのは小学1年生。字の美しさを大切にする両親の勧めがきっかけだった。「書けば書くほど上達するところが書の魅力。正解がなく、自分らしい表現ができるのが楽しいです」と語る乾さん。「これからは、自分のスタイルを確立し、賞を取れるような書を追求したい。そしていつか、人に認められる書道の先生になりたいです」と、筆を手に未来を見つめている。



大賞受賞の喜びを語る乾さん

卒業記念ミュージカル開幕に向け 実行委員長野中ありあさん^(教育4)が奮闘

3月7日(土)・8日(日)の2日間、本学記念講堂において教育学科有志による卒業記念ミュージカルが今年度も上演される。演目は「アリスとことばのまほう」。実行委員長の野中ありあさん(教育4)は、子どもが楽しみながら理解できる構成を心掛けたと話す。言葉のかけ方が相手の気持ちにどう影響するのか、自然に感じ取れる演出を盛り込んだ点について、「顔が見えないやり



とりが増えた今だからこそ、思いやりのある言葉を選ぶ大切さを感じてほしい」と語る野中さん。制作過程では意見がぶつかることもあったため、誰でも書き込める事項書を作成し、意見を出しやすく、全員で進捗を確認できるよう改善。結果、情報共有がスムーズになり、協力し合いながら制作を進められるチームへと成熟していった。こうした経験を通して、互いの考えを尊重しながら形作っていく難しさと、乗り越えた先にある価値を実感したと振り返る。

卒業記念ミュージカルは3月7日(土)・8日(日)14時開演。ぜひ家族や友人をお誘いあわせの上、ご来場ください。



教育学科での学びを生かしたいと話す野中さん

女子軟式野球部が2年連続ベスト4 全日本大学女子野球選手権大会

女子軟式野球部が毎年8月末に富山県魚津市で開催されている全日本大学女子野球選手権大会でベスト4に進出した。昨年の初出場に続く快挙で、2年連続の上位進出となる。

部員10名と監督・コーチ陣4名の計14名という少人数のチームながら、一人ひとりが野球への強い情熱を持ち、日々樂

しみながら全力で練習に取り組んでいる。

投手・捕手としてチームを支えるキャプテンの山口胡桃さん(教育3)は、2年連続4位という

結果に「とてもうれしいです。全員が力を出し切ったからこそこの成果だと思います」と笑顔を見せる。また、キャプテンとして「みんなが野球を頑張ろうと思える雰囲気づくりを大切にしてきました」とチームへの思いを語った。

大会を振り返り、勝ち進むにつれて体力不足を課題に感じたと話す山口さん。「冬に入るので、基礎練習に加えて体力づくりにも取り組んでいきたいです。鬼ごっこなど楽しさを取り入れながら、少しずつ力をつけていきたい」と意欲を示す。今後の目標について、「来年はこれまでの結果を超える。一人ひとりが向上心を持ち、リーグ戦や練習試合でも内容や勝敗にこだわった試合をしていきたい」と力強く語った。



仲の良さはぴかいち!

メンバーに聞きました!

川口咲良さん(国史4♦サード)

個性が溶け合い、一つにまとまる統一感のあるチームです。「強い気持ち」を合言葉に仲間も思い出も増えていきます。入部して良かったと必ず思える部活です!

岡岡愛心さん(教育4♦ライト)

野球を心から楽しめ、全力で向き合う姿勢がチームの強み。仲間と支え合うことで大きく成長できました。勝利の瞬間の一体感は格別。初心者でも安心して挑戦できます!

原 奈津美さん(教育4♦ピッチャー)

メリハリがあり、仲が良いところが魅力。役割を理解して行動できるようになり、4年間とも充実していました。部活で大学生活がぐっと豊かになります!

森島希菜里さん

(教育4♦ショート・ピッチャー)

仲間の活躍を自分のことのように喜べる温かいチームです。責任感が育ち、大学ジャパンでの経験は野球の楽しさを再確認する瞬間でした。大学で続けて良かったです。

岸 香織さん(国史3♦レフト)

メンバー全員が「強い気持ち」を持っているのが強み。忍耐力がつき、勝利の瞬間に入部して良かったと実感します。思い出も多く、青春できる部活です!

豊岡 葵さん(教育2♦ファースト)

全国4位や勝利の喜びを全員で分かちえるチームです。少人数で仲が良く、前向きに野球を楽しんでいます。運動好きな方、ぜひ一緒にプレーしましょう!

酒井菜々巴さん(教育1♦センター)

多くの人と関わる中で、自分の意見を伝える力が身につきました。大学から始めましたが、優しい先輩と仲間のおかげで毎日楽しいです。声を掛け合いながら野球を楽しんでいます。

山口花凜さん(現日1♦セカンド)

勉強と部活を両立しながら結果を残しているのがチームの強み。自分から行動できるようになりました。先輩後輩の壁がなく、温かい雰囲気の中で貴重な経験ができます。